

◎高山植物に親しもう①(春)

山登りの楽しみ方は各自各様。自分の楽しみを見いだせば山に行く回数も増す。その一つが高山植物の観賞ではなからうか。まず「綺麗だ」から始まって、名前を覚えたり、その山独特の種類を見つけたり出来るようになれば、漫然と歩いていた登山道が素晴らしい発見への道につながる。



①ミツマタ

A. 高山植物とは

日本高山植物保護協会によれば「高山植物」とは高山帯で発生分化、進化し、そこが生活の本拠になっている植物を言う。又氷河の南下と共にやってきて、そのまま高山帯に残っている物を含めて呼んでんでいるようです。難しく考えないで日本の高山に、利尻、礼文等に咲く花も含めましょう。



②ショウジョウバカマ

B. 高山植物の種類

高山植物は非常に種類が多く、一般に知られた物だけでも1000種はくだらない。専門的には色区分するが、わかり易いように色で、季節で、山域で分けたりした解説書が多く出回っている。難しい事は別にして、登山道で見かける高山植物のいくつかを紹介してみよう。できれば参考書として、どんな本でも良いので一冊用意して欲しい。私が重宝しているのは「山の花1200」である。



③サンカヨウ

C. 春の高山植物

限られた紙面で説明するのは至難の業である。とてもこの紙面で写真も交えて語れるものでないが、あえて独断と偏見で今まで見かけ、記憶に残った花を順不同いくつか紹介しよう。

- ①ミツマタ: 丹沢周辺にも多く自生しており、花のつく枝が三俣になっている。
- ②ショウジョウバカマ: 雪渓が消えるとすぐに咲き出す特徴ある高山植物。
- ③サンカヨウ: 雪が消えた沢筋に白い可憐な花を付ける特徴のある高山植物。
- ④シラネアオイ: この花は是非覚えて欲しい。シラネアオイは日本独特の高山植物で1科1属1種、すなわち親戚縁者が世界に誰もいない変わり者。薄紫の清楚な花は美しい。サンカヨウと同じ沢筋に二つ一緒に見ることが出来る。名前発祥の地である日光白根山では食害で当時の面影はない。
- ⑤ミヤマキリシマ: 九州の九重地方を中心に分布するツツジの一種。時期になると歌にも歌われるように山一面に咲き誇り、登山者の目を楽しませてくれる。



④シラネアオイ

- ⑥キタダケソウ: 北岳の雪が消える間に咲き、見られる期間が短い分、人気が高い。
- ⑦キクザキイチゲ: これも雪が消えると咲き出す。沢山種類(アズマイチゲ、ヒメイチゲ等)があり、色も各種。ユキワリソウも同じ仲間。
- ⑧ヒメサユリ: 日本海側に多く見られ、薄ピンクの綺麗な花は登山者を喜ばす。
- ⑨エンレイソウ: 花、葉とも3枚で構成されている。一般的には赤い花だが、白い花のシロバナエンレイソウや花の大きいオオバナノエンレイソウも。
- ⑩ゴゼンタチバナ: 次のマイズルソウと共に一般登山道でも良く見かける花の定番で、葉が6枚になって初めて花が咲く。
- ⑪マイズルソウ: 鶴が羽を広げて舞う姿に似ているのでこの名がついた。登山道脇に群生する。
- ⑫ヒトリシズカ: 白いブラシの様な花を咲かせる。フタリシズカも有るが花の形は随分違う。
- ⑬エイザンスミレ: 日本には数多くのスミレが存在し、本になる程である。その中で特徴的なのが本品種で、葉が深く切れ込んでいる。
- ⑭イワカガミ: これも登山道で良く見かける。一般的にはピンクの花だが、白い花のヤマイワカガミやオオイワカガミ等種類も多い。
- ⑮ハルリンドウ: 春咲くりンドウの代表格である。似たような花でフデリンドウがある。見分けは花びらを上から見て、黒い筋が有るのが本種。
- ⑯イチリンソウ: 湿地に群生して白い花咲かす。ニンソウ、サンリンソウとは葉柄で見分ける。
- ⑰ノウゴウイチゴ: 実は美味しく、花びらが7枚あり他の5枚のへビイチゴ等と見分けがつく。
- ⑱ハハコグサ: これも良く見かける。花の大きいタカネヤハズハハコは少しピンクの花。
- ⑲ハシリドコロ: 食べればもがき走り出すと言う。茹でれば美味しそうだが、食べてはいけぬ。



⑤ミヤマキリシマ



⑥キタダケソウ



⑦キクザキイチゲ



⑧ヒメサユリ



⑨エンレイソウ



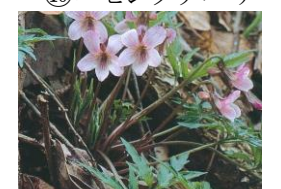
⑩ゴゼンタチバナ



⑪マイズルソウ



⑫ヒトリシズカ



⑬エイザンスミレ



⑭イワカガミ



⑮ハルリンドウ



⑯イチリンソウ



⑰ノウゴウイチゴ



⑱ハハコグサ



⑲ハシリドコロ

◎ほんの一部しか掲載できなかったが、登山道脇の高山植物にも目を向けて欲しい。覚え始めると花を見るのが楽しい。

